

## 藤子食堂

**事業主体** 名称：藤子食堂  
住所：和気町藤野  
**事業実施場所** 藤野会館、藤野民宿

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など) ※実績報告書(様式6)②目的、③概要・方法

昨年度も本事業の委託を受け藤子食堂を実施しました。継続的・定期的な活動を続けていることで地域の方にも受け入れられ、居場所としての認知度も上がってきているのを実感しています。ただ立ち寄ってくれる子は一握りであり、また固定化しているのも現状としてあります。より沢山の子に、気軽に足を運んでもらえる場になるよう、居場所として思い出してもらえるよう、今後も継続開催し子どもたちを受け入れていきたいと思っております。

また食事提供だけでなく、自分で作るという体験機会の提供、地域の方々や高校生ボランティアの受入れなどによる多世代交流の場の提供を目指し、地域ネットワークを大切に活動していきたいと考えています。

～事業実施内容～

居場所づくり

<第1回>

- ①事業名 藤子食堂  
②参加人数 計61名(幼児3名、小学生33名、中学生6名、高校生3名、保護者5名、大人2名、ボランティア9名)  
③日時 令和6年7月29日(月)  
④場所 藤野会館  
⑤内容 食事提供、フードバンクさんからいただいた飲料配布、遊びコーナー(お絵描き・ボードゲーム・レゴ・バルーンなど)の設置、まなびスペースの実施、絵画講師による絵の宿題講座



⑥活動の成果等

和気閑谷高校生のボランティアが来てくれ、調理、配膳の手伝い、また子どもたちとの遊び相手をしてくれた。昨年同様、夏休みの絵画の宿題を取り組む時間を作り美術講師が来てくれたが、昨年以上に宿題を持ってくる子も多く、主体的に取り組む様子が見られた。また絵画以外の宿題にも意欲的に取り組んでいた。小さい子は、食事後に広いホールで元気に遊ぶ様子が見られた。

<第2回>

- ①事業名 藤子食堂  
②参加人数 参加者数 計50名(保育園児10名、小学生26名、中学生10名、高校生4名)

- ③日 時 令和6年8月5日(月)  
 ④場 所 藤野会館  
 ⑤内 容 餃子の王将さん子ども弁当無料配布、遊びコーナー(お絵描き・ボードゲーム・レゴ・バルーンなど)の設置、まなびスペースの実施



#### ⑥活動の成果

お弁当の配布だけでなく食べられるようにもしておいたが、多くの子が友達と楽しく弁当を食べる様子が見受けられた。居場所として参加することがあまりない子でもお弁当の配布には足を運んでくれ、夏休みということもあったのだろうが、無料でのお弁当配布への需要の高さを感じた。今後このような取り組みも増やせるよう、地域ネットワークなどともより連携を深めていきたいと感じた。

#### <第3回>

- ①事業名 藤子食堂  
 ②参加人数 計49名(保育園児5名、小学生24名、中学生3名、高校生1名、保護者6名、ボランティア10名)  
 ③日 時 令和6年8月19日(月)  
 ④場 所 藤野会館  
 ⑤内 容 食事提供、フードバンクさんから寄付されたお菓子のくじびき、かき氷提供、遊びコーナー(お絵描き・ボードゲーム・レゴ・バルーンなど)の設置、まなびスペースの実施



#### ⑥活動の成果

カレー作りには多くの小学生が参加してくれ、高校生ボランティアや大人スタッフと協力して、皮むき・カット・炒めなども積極的に取り組む様子が見られた。自分で作ったカレーは美味しいと笑顔の様子が見受けられた。チラシは配布していないのだが、お知らせを見てくれ来てくれた他地区の子が複数おり、親御さんからはこういった場所があるとありがたいといった声が聞かれた。

#### <第4回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計38名（保育園児5名、小学生16名、中学生3名、保護者5名、ボランティア8名）
- ③日時 令和6年9月28日（土）
- ④場所 藤野会館
- ⑤内容 食事提供、かき氷作り、遊びコーナー（お絵描き・ボードゲーム・レゴ・バルーンなど）の設置、まなびスペースの実施



#### ⑥活動の成果等

毎回来てくれている小学生が意欲的にお手伝いをしてくれ「みんなで作っていく場」という形が浸透してきているのを感じた。地域のお祭りで余ったというかき氷シロップをお持ちくださる方や、配布用のお菓子、クリアファイルなどを持ってきてくださる方もいて、地域の皆さまが子どもたちのために何かしたいという気持ちを形にできる場になりつつあるのを感じた。NPO 法人ママほっとサロンさんが今回もアウトリーチでおこしくださり、編み物オブジェ作りなどを通して関わりを持ってくれ、保護者も子どもも安心して過ごしている様子が見受けられた。

#### <第5回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計13名（保育園児1名、小学生5名、中学生1名、大人6名）
- ③日時 令和6年10月12日（土）
- ④場所 和気町日室エリア
- ⑤内容 稲刈り



#### ⑥活動の成果等

参加者は少ないながらも、このような体験ができて楽しい、という声が聞かれた。また、今回ご協力くださった田んぼの持ち主さんからは、一人でやると大変だがみんなでやると早くとても助かると言っていたいただき、これからもこういった地域の方との関わり合いの場を作っていきたいと思う。

<第6回>

- ①事業名 藤子食堂  
②参加人数 計42名（保育園児8名、小学生22名、中学生3名、大人9名）  
③日時 令和6年11月30日（土）  
④場所 藤野会館  
⑤内容 スターバックスさんから寄付をいただいたお菓子・フードバンクさんからいただいたお菓子の配布



⑥活動の成果等

お子さんが多くいる世帯では、「こんなにたくさんのお菓子を子ども一人ひとりにもらえるのは非常に助かる」と言った声が聞かれた。また、近隣にスターバックスさんがいないため、スターバックスさんのお菓子がもらえるのも嬉しいという声が聞かれ、多くの子どもたちの笑顔につながったように思う。

<第7回>

- ①事業名 藤子食堂  
②参加人数 計48名（保育園児1名、小学生26名、中学生5名、高校生3名、保護者4名、大人3名、ボランティア6名）  
③日時 令和6年12月27日（金）  
④場所 藤野民宿  
⑤内容 お餅つき、おかやまコープさんからいただいたお菓子の配布、たき火でマシュマロ焼き、大縄・バドミントンなどの外遊び、和気町社会福祉協議会さんからお借りしたストラックアウトでの遊び、まなびスペースの実施



⑥活動の成果等

去年も手伝ってくれた地域のおばあちゃんが、今年のお餅つきも手伝ってくれ、地域交流の場になった。小さい子も意欲的に餅つきにチャレンジする姿が見られた。高校生が久々に足を運んでくれ、また最後まで小学生とも遊んでくれ、世代を超えて自然につながっていく場になれているように感じた。まなびスペースで勉強に取り組む子もおり、静かに過ごしてもいいと思う子が取り組める環境に少しずつだがなっている様子だった。

## <第8回>

- ①事業名 藤子食堂  
②参加人数 計 51名（保育園児 2名、小学生 32名、中学生 6名、高校生 1名、保護者 4名、ボランティア 6名）  
③日時 令和7年1月25日（土）  
④場所 藤野会館  
⑤内容 食事提供、ホットケーキ作り（おかやまコープさんからいただいたホットケーキミックス使用）、フードバンクさんからいただいたお菓子配布、遊びコーナー（お絵描き・ボードゲーム・レゴ・バルーンなど）の設置、まなびスペースの実施



## ⑥活動の成果等

よく来てくれている子どもたちが主体的に、「お手伝いしたい」と声をかけてくれ、ホットケーキを焼くお手伝いをお願いすることになった。初めて焼いたという子もいたり、みんなと一緒に焼くのがとても楽しかったという声も聞かれた。家以外での手伝いの場、褒められることのできる場の一つになっているようで、継続していきたいと感じた。当日の子どもたちの見守りについて、参加の保護者に予めお願いしていたところ、皆快く協力してくれ、何かしら協力したいと思っっているという気持ちまで聞くことができた。

～事業を終えて～

### ○事業実施による効果

2023年、2024年と本事業の委託を受けて実施をしているが、地域の方から声をかけていただくことがだいぶ増えてきたりと、年を重ねる毎に地域に浸透してきていると感じている。隣学区からも足を運んでくれる方もおり、子ども食堂の需要の高さを実感している。また和気町には中学生が気軽に立ち寄れる居場所がないため、中学生に立ち寄ってもらいたいと考えている。小学生の参加がまだまだ多いが、地域の中学生に声をかけるなどしていると、少しずつ継続的に参加してくれる子達も出てきており、今後中学生にも活動が浸透していけばよいと感じている。アンケートからも、また行ってみたいという声や、保護者からもこのような場が継続してあってほしいなどと言ったポジティブな声も聞かれ、月1回ではあるが、子どもたちにとって大切な居場所の一つになっていると考えられる。

### ○今後の課題・展開

嬉しいことであるが、参加してくれる人たちが増えてきていることもあり、代表を含め調理ボランティアにかかる負担が少しずつ増えてきているのも事実としてある。予算の確保・メニューの考案・材料の調達・大量の調理を時間内に終わらせるための当日の調理フローまで、以前よりも詳細に考えなければならないことも増えてきている。負担なく手伝いたいと考えているボランティアの人たちへ、どこまでの業務をお願いしても大丈夫なのか等、常に難しさを感じている。また、子どもたちの見守りや関係性の構築においても、人数が増えることで行き届かない子が出てきているとも思うため、子どもたちの様子に配慮してくれる、子どもたちの心をサポートするスタッフ確保の必要性も考えている。

また今年度難しいと感じたことの一つとして、感染症蔓延時における対応が挙げられる。学級閉鎖になっているからこそ、場として必要という意見もあり、その際どのような形であれば信頼を

得ながら開催していけるのか等、他団体の対応なども学びつつ今後ある程度の指針は決めていきたいと考えている。

○まとめ

藤子食堂という場所が浸透し、子どもたちに受け入れられ、地域の方からも信頼を得られるようになっているのはとてもありがたいことであるが、反面その責任の重さも感じている。

一回一回が大切な場であり、子どもたちにとって大切な一日であるので、その時間をホッととして過ごしてもらえよう、引き続きまずは関係性の構築と子どもたち一人ひとりにあった対応を心がけていきたいと思う。今後も月 1 回のペースにはなりますが継続開催しながら、運営スタッフのスキル向上や専門知識の習得をはじめ、学校や行政・地域の方々との横連携をより構築し、子どもたちが安心して過ごせる場、ボランティアが自己達成できる場、食をはじめとする子育てのサポートの場となるよう、これからも取り組んでいきたいと思う。